

思いを伝えるために

秋田県横手市立横手南中学校

一年 山 田 朔

英語で挨拶をしてみたい。そんな軽い気持ちで習い始めた英会話が、今ではもっと自分の世界を広げるツールとして意味合いを変えてきている。私の家では長期休暇の際に海外に行くことが多く、私が英語に興味を持ったのは小学四年生のころだった。

小学六年生の春休み、私は母とスペインへ旅行したことがとても心に残っている。旅の目的は、私の大好きなチームのサッカー観戦と、世界遺産の見学だった。ドイツ経由のフライトだったので、スペインのマドリッド空港に到着したのは日本時間の深夜だった。私たちはスーツケースがベルトコンベヤーに流れてくるのを眠気と戦いながら待っていた。すぐ側にはドイツのスポーツ選手団と思われる若い男性たちが同じように待っていて、私はヨーロッパに着いたことを実感していた。気付くと自分の荷物が目の前を通り過ぎようとしており、慌てて取り上げようとするも荷物が重く、取り損ねる寸前という正にその瞬間。横にいたドイツ人選手団の一人がそれを軽々持ち上げ、私の前に置いてくれたのだ。私から咄嗟に出た一言「Thank you」するとその人は「You're welcome」と言った。短いながらも感謝が伝わり、何よりも英語でコミュニケーションを取

れたことが嬉しく、とても新鮮な気持ちになった。

もうひとつ、印象に残った出来事がある。私たちがサッカー観戦を終え、地下鉄でホテルに戻る時の出来事だ。カンブノウというスタジアムは収容人数が十万人規模のため、試合のある日は最寄りの駅が大混雑であった。身動きが取れず、人の流れに身を任せるだけ。もみくちゃにされて、ポケットに入れたあった紙の地下鉄回数券がヨレヨレになってしまった事態に。案の定、改札口でエラーが出てしまい、しかしこの人ごみを逆行して新しい券を買いに戻ることもできないというピンチ。私は焦りに焦ってあふたするしかなかった。「他の人の迷惑になつてる……どうしよう。」その瞬間、近くにいた男性から助け船が。その男性は私の回数券を手にとると駅係員のいる場所に行き、交換してきてくれた。そしてすぐに立ち去ってしまった。私は心底助かりこんな親切な人がいるんだなと、感動でいっぱいだった。右も左も分からないスペインで思いがけず人の優しさに触れ感無量。もし自分に十分な語学力があったら男性に何て言っただろうか？ 男性を呼び止めて感謝を伝えたかった。それなのに結局ありがとうの一言も言えなかったのは心残りだ。

帰国後、スペインでの出来事を振り返り改めて思うのは、非英語圏の人々も第二言語として英語をよく使うということだ。実際に、この旅行中に空港やホテル、タクシー、駅、レストランなどでごく自然に英語が使われていた。スペインの母国語はスペイン語であるはずなのに……。そして、旅行中は何かと人にものを尋ねたりお願いしたりすることが多く、英語が話せると有利だということだ。そこで、私は英会話の先生にお願いすることにした。今までのレッスンは受け身だったが、これからは文法を整理しながら単語もたくさん覚えて実際に海外で使え

るように頑張りたいので文法を教えて下さい、と。その後は今までよりもっと真剣に英語を学ぶようになり自分の英語力を試す場として英検を受けている。これまでに五級、四級と合格してきて次の目標は三級合格だ。

自分の英語が役立つ場面を想像してみる。海外旅行で様々な国籍の人とのコミュニケーションの手段として英語は非常に有効だ。コミュニケーションという点でいうと海外旅行の場面にとどまらないかもしれない。去年、日本を訪れた外国人旅行者の数は1341万人で過去最高を更新したと聞いた。2020年に日本でオリンピックが開催されるというところで、日本は海外から非常に注目されている。旅行者は都心部にとどまらず、地方にも観光に来ると予想されているのだ。私がスペインで現地の人から受けた優しさと思うと、いつか自分も日本を訪れる方々に親切のお返しができたらと思う。その際に、英語はコミュニケーションのツールとして役に立つだろうから、大事にしたい。

英語を学びながらいろいろな可能性と期待がふくらんでいく。私はこれからも継続して英会話のレッスンを受け、自分の思いを伝えられるように、自分の世界を広げられるように励んでいきたいと思っている。

作文を書くに当たって

英語を勉強していると、こんな場面で使えるかな？ と具体的に頭の中でイメージしていることが多くあります。英語を話せたらこうなるだろうというワクワク感が原動力となっています。自分の頑張っていることを作文に残せて記念になりました。